

「共に祈る」

～私の家はすべての民の祈りの家と呼ばれる～

マタイ 18:18 ～ 22 マタイ 28:20

私たちが、2人、3人で心をつにして祈るとき神様はその祈りの只中に居てくださって、私たちの願いを聞いて下さいます。

神様はどうして私たち人を創ったのでしょうか。(ローマ15:2) 私たちは人との関係を持たなくては生きていくことはできません。たとえば、私たちは、普段食べているお米をみても一人でつくり上げることは難しいことです。いろいろな人が関わり私たちの口に届くのです。このように私たちの生活は人間関係を持たなくては生きていくことができません。人間関係を上手に築ける人は何をやっても上手くいくと言っても過言ではありません。人間関係をうまくいかせる鍵はどこにあるのでしょうか。二宮金次郎は”人間関係とは、互いに持つ徳を掘り起こすこと”といました。お互いに徳を高め合いましょ。とありますが、”徳”とはなんでしょう。クリスチャンは言葉だけでそれを行うのではなく、それを行うことのできる神様に伝えるために神様を間に迎え、祈りあう中で、(ローマ15:2)のような御言葉が実践できるのです。愛を語るだけでなく行いまいましょと言われます。人を愛するために神様を間に迎え祈りあう中で愛することができるようになるのです。私たちは、一人で生きていくことはできません。(創2:18) 神様はアダムの助け手としてイブを創られました。創生の最初から神様は私たちをひとりでは生かしませんでした。助け手を与えて共に生きるようにしました。私たちの教会もそうです。

(人は隣人を感じ、認め、愛し赦し、祈りあうとき、あなたの助け手になる。) 私たちはこの教会でそれぞれが負っている重荷を互いに負い合い、祈り、そして、愛の実践のする場がこの教会なのです。キリストはあなた方の只中にあり、恵みと奇跡が起こる。と言われています。(ヤコブ5:13～20) 私たちは祈るだけでなく祈ってもらうことも大切です
一にも祈り、二にも祈り、三にも祈り

■ ①一人で祈る場所ゲッセマネ

イエス様も一人で祈ることをとても大事にしていました。自分で、祈りの場所に行き祈っていました。皆さんは日々の生活の中で、一人で祈る時間、特別な場所に行って祈ることを大事にしていますか。神様と一対一になって会話するためにとても大事なことです。これがなければ、互いに祈りあうこともできません。祈りの中で、神様に祈りを聞いてもらい、神様からの言葉を受け取る。毎日このことを大切にしていきたいましょ。

■ ②祈りのパートナーとともに

必ずみなさんには、祈りのパートナーがいるはず。祈りのパートナーとの時間は壽分もっていますか。家族、教会みんなとともに、祈りあうことを大切に持ちましょ。

■ ③あなたの人生に いつも隣人を思う祈り

神様は、みなさんに任されている近くにいる隣人、あなたでないと、祈れない人、あなたの関わる人のために祈りを、大事に聞いて下さいます。いつも隣人を思い祈りましょ。最後に赦し合いましょ!!!

最後に赦し合いましょ!!!

兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。おのおの自分の行いをよく調べてみなさい。そうすれば、誇れると思ったことも、ただ自分だけの誇りで、ほかの人に対して誇れることではないでしょう。人にはおのおの、負うべき自分自身の重荷があるのです。(ガラ6:1～5)

イエス様が愛してくださったように、共に笑いあい、祈りあい、赦しあう。今日、私たちは祈りの生活になっているか、そして私たちは本当に赦し合っているか改めて、考えながら、一週間歩んでいまいましょ。
今回のメッセージは私たち一人一人に語られていることを受け取る必要があります。だからこれを読んで終わりではなく、お祈りの中で神様の思いを感じていまいましょ。